

「世界盆踊り連」活動報告書

2008年7月5日 「セネガル、ダカールの盆踊り」

報告者名：家弓 重正

○開催場所：ダカール市、アフリカ高等経営センター(GESAG)内の教室

○日時：2008年7月5日(土)：

1330-1730 「日本語の日」プログラム全体

1600-1700 盆踊りの時間として割り当

○主催者：アフリカ高等経営センター及びその日本語コースで教える青年海外協力隊の淀川郁美さん、アフリカ高等経営センターは、日本で言う私立のビジネススクールであり、ここで勉強する学生はセネガルとその近隣諸国のベナン、カメルーン、ブルキナファソ、マリ、コートジボアールなどから来ている。ここではフランス語圏の学生が多いので、英語習得コースや日本語習得のコースがある。

○参加者：日本語コースの学生が中心

○参加人数：40人位

○プログラム：日本紹介ビデオ、折り紙、お箸を使う練習、浴衣の着付け、ケンダマ、盆踊りなどの日本文化の紹介

○踊りの曲目：炭坑節、東京音頭、阿波踊り

○「世界盆踊り連」の関り・役割：

「日本語の日」の内容を企画していた淀川さんが、協力隊員の仲間から聞いたということで、電話にて家弓に盆踊りの依頼をしてきたので快諾して、協力した。

○当日の様子：

事前に何の練習もなく、いきなり開始した。最初は炭坑節で、振り(踊り方)の基本を見せたら、学生はすぐに覚えてしまう。ついでキヨシのズンドコ節で炭坑節の振りで踊った。続いて東京音頭を2回、これも簡単に覚えてしまう。次に阿波踊り、これは難しいだろうと思っていたらベナンの女子学生は瞬間的にこの動きについてきたのには驚きであった。彼女はずっと私のすぐ後ろについて踊っていた。

3曲を踊ってみて、どの曲が一番好きかと学生たちに聞いたところ、3分の2位の学生は「東京音頭」と答えた。私は「阿波踊り」という答えを期待していたので、これも意外。好きな理由は、曲の感じと振りの感じが良いらしい。

学生達が日本の曲で、日本的振りつけで踊るのは恐らく初めてであろうが、簡単に覚えて楽しんでくれたので、歌や踊りには、人種や民族や国境などないものと実感できて、私自身が楽しかったし、参加者にも学校側にも喜んでもらえると思う。

淀川さんには、曲をコピーしたCDを前もって渡したが、それがうまくいかないということで当日にデータをもって行き、PCからミキサーを通して曲をかけたらうまくいった。事前の確認が必要である。

○ 写 真 :



アフリカ高等経営センターの正門と校舎の一部



炭坑節



東京音頭



阿波踊り



阿波踊り



振りを覚えるのは日本人より早いと思った



家弓の左がベナンの女性、踊りが一番上手だった



右が JOCV 日本語教師の淀川郁美さん



浴衣を着て喜ぶ女性達、きれい着飾りたいのはどこの国の女性も同じようだ

以上